〔賤者考〕是ら人○癲の外にも、乞丐中に、盲聾咽啞無手指躄畸疾侏儒大瘤のくさぐさ見るにもいぶせきもの多し、前條にいふ觀物師の屬に入るべきもありぬべし、つれ〴〵草に、東寺の門のほとりにかゝる者の集ひ居たるを、はじめは希有に珍らしと見ゐけるが、ほどなくいぶせくなりて、常に異なる物はよしなかりけりと思ひなして、家にかへりて、つねはめづらしとめで植たりし奇樹などを、皆堀出し捨たりと見えたるがげにさもあるべし、昔よりかやうの者は門のほとりなどによりて、雨露をしのぎもするものなり、畸疾は片羽の意にて、鳥などより出し辭ならむといへり、令に篤疾廢疾といふ下に種類をも出せり、謠曲に弱法師とあるも此類と見ゆ、狂人癡子情狂も女丐は殊に見るもいぶせくうるさし、これらまではたゞちに憂を告て、米錢餐餘弊衣汚帶をも乞ふ者なり、

〔和漢三才圖會十人倫之用〕倚人（かたわもの）　畸音雞倚反　俗云片輪加太和　言如車一輪不行、支體不具謂之倚、穀梁傳云、季孫行父禿、晉郤克眇、衛孫良夫跛、曹公子手僂、同時聘于齊、齊使禿者御禿者、眇者御眇者、跛者御跛者、僂者御僂者、蕭同叔子處臺上而咳之、客不悅而去、齊人曰、齊之患自此始矣、

〔枕草子四〕ありがたきもの

露のくせ、かたはなくて、かたち心ざまもすぐれて、世にあるほどいさゝかのきずなき人、

〔源氏物語六末摘花〕まろ○源氏がかくかたわに成なんとき、いかならんとの給へば、うたてこそあらめとて、さもやしみつかむとあやうく思ひ給へり、

〔源氏物語二十玉蔓二〕いみじきかたわのあれば、人にもみせであまになして、わがよの限はもたらんといひちらしたれば、故少貳のうまごは、かたわなんあなる、あたらものをといふ、

〔信長公記八〕天正三年、去程に、哀成事有、美濃國と近江の境に山中と云處あり、道のほとりに、頑者（カタハモノ）